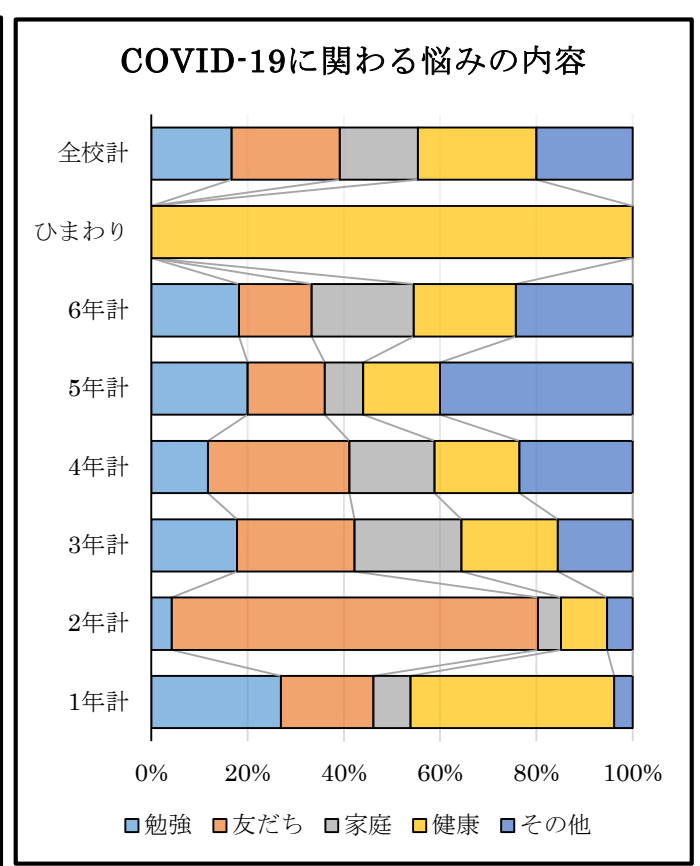
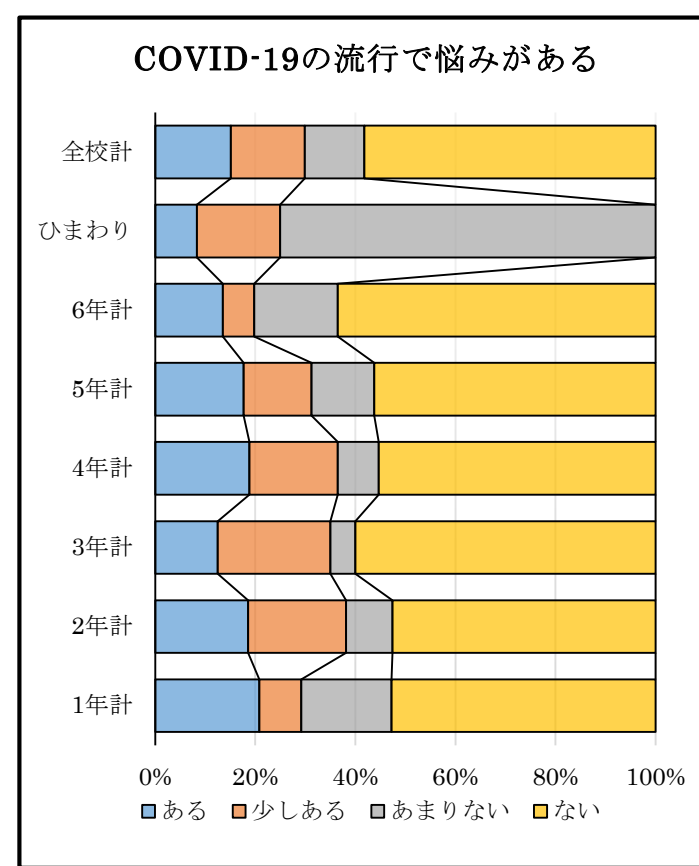
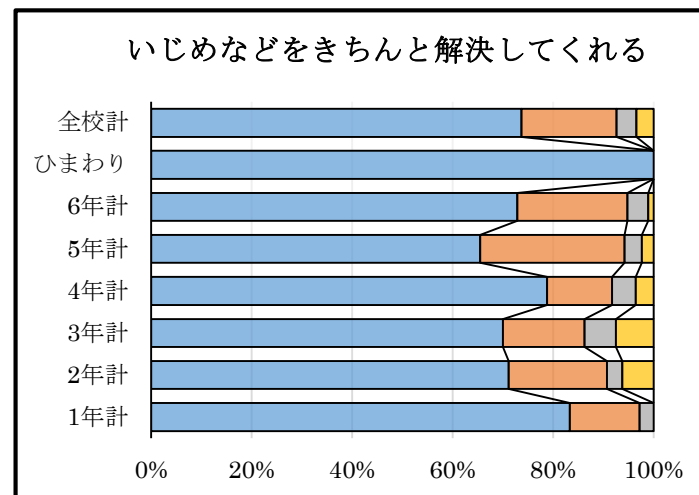
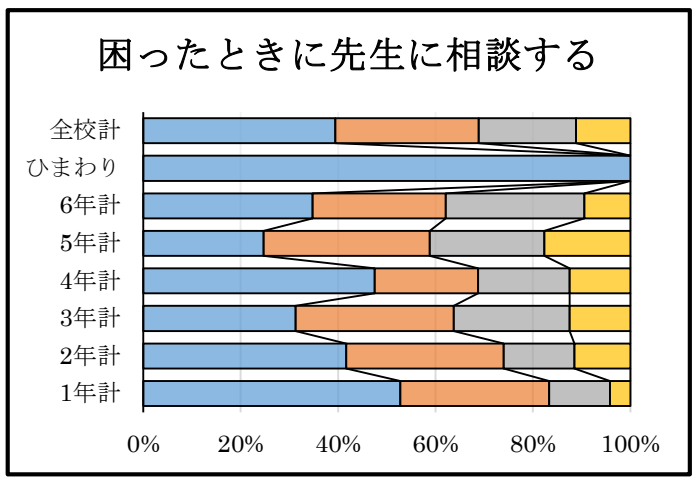
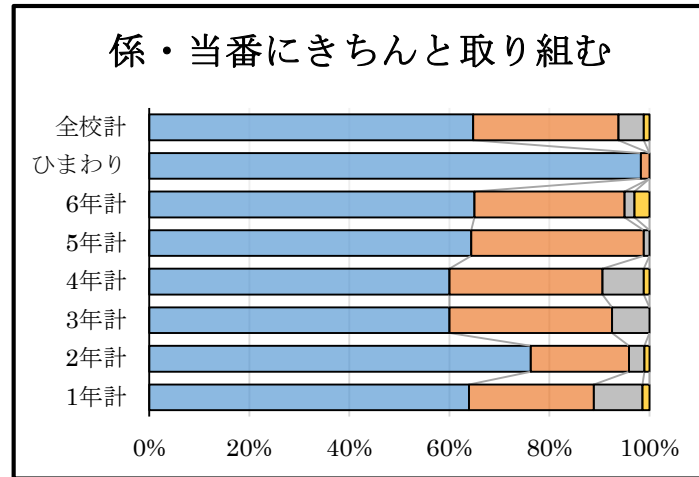
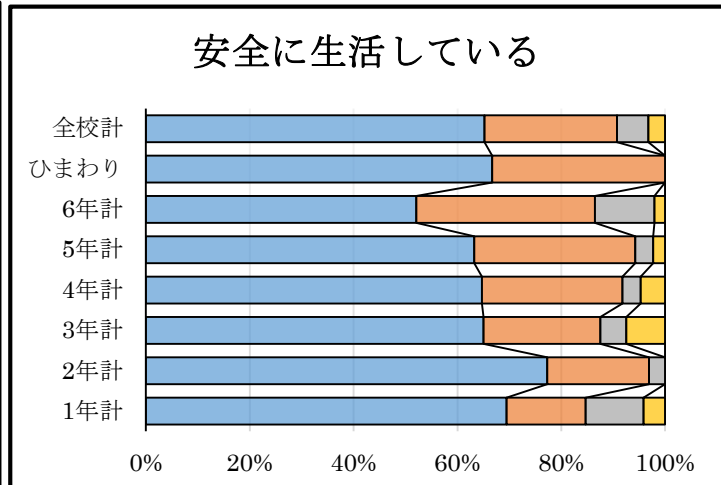
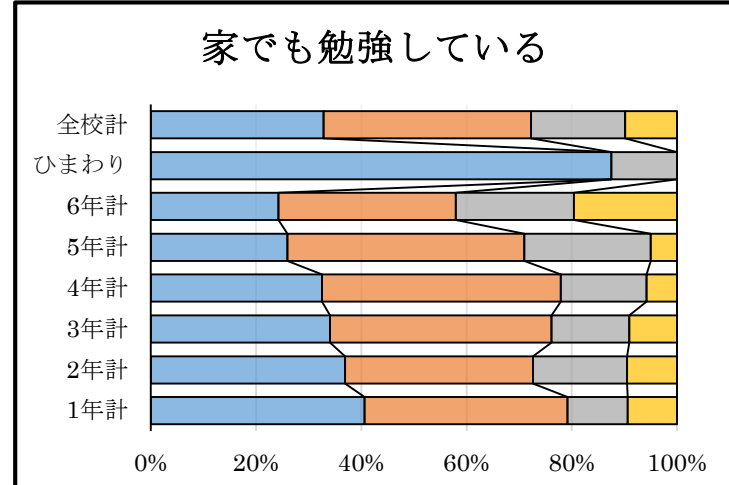
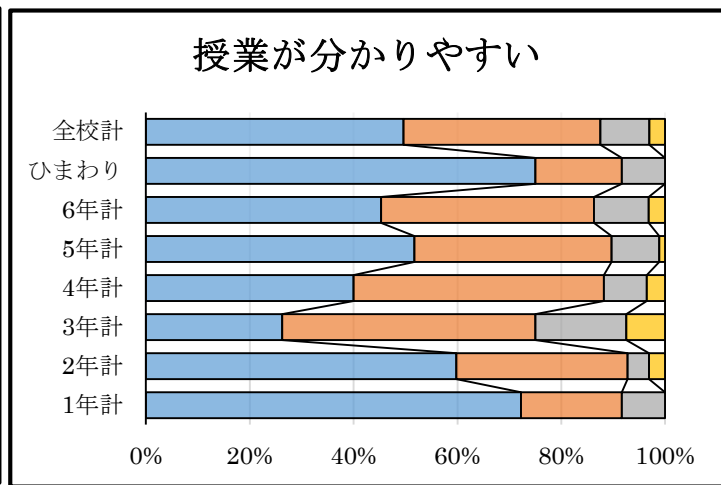
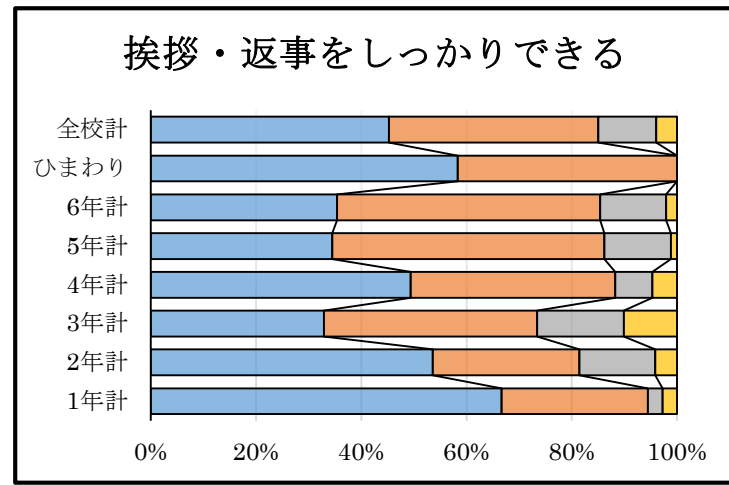
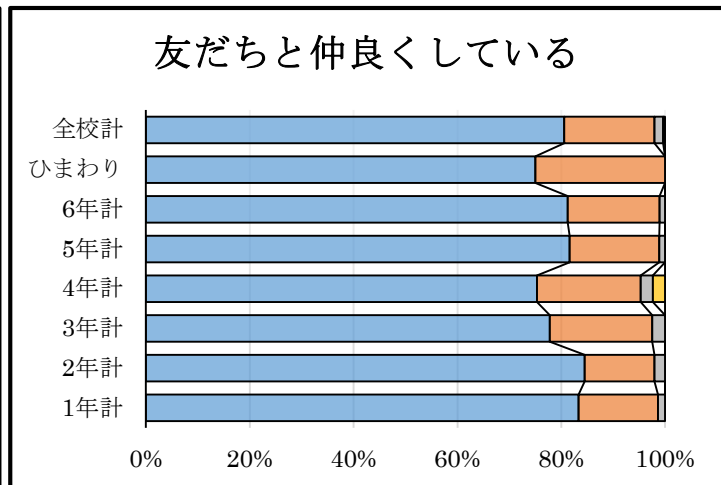
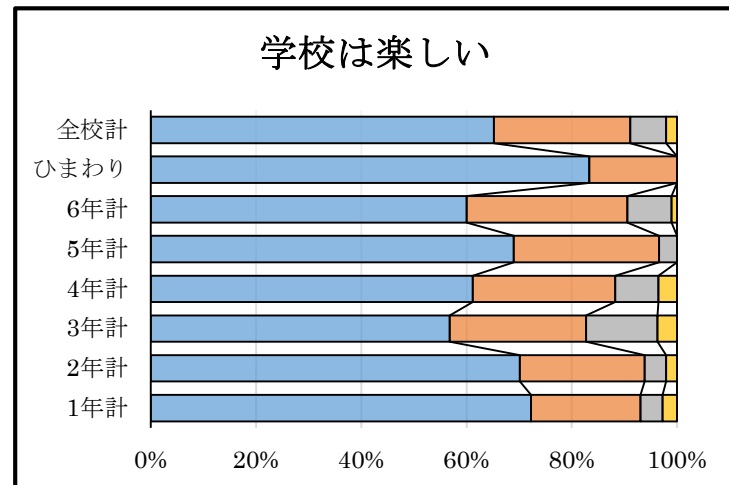


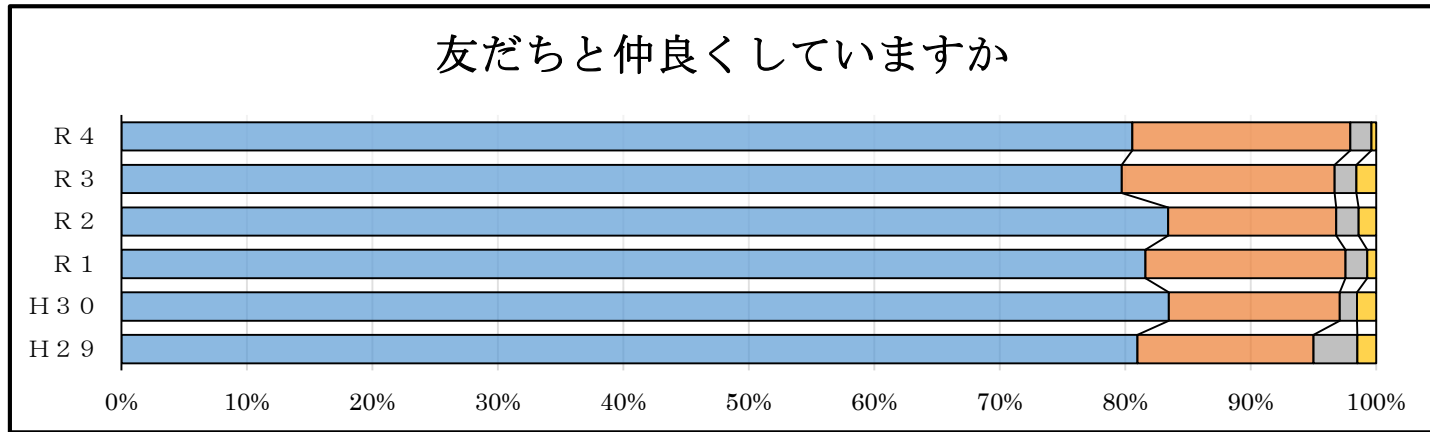
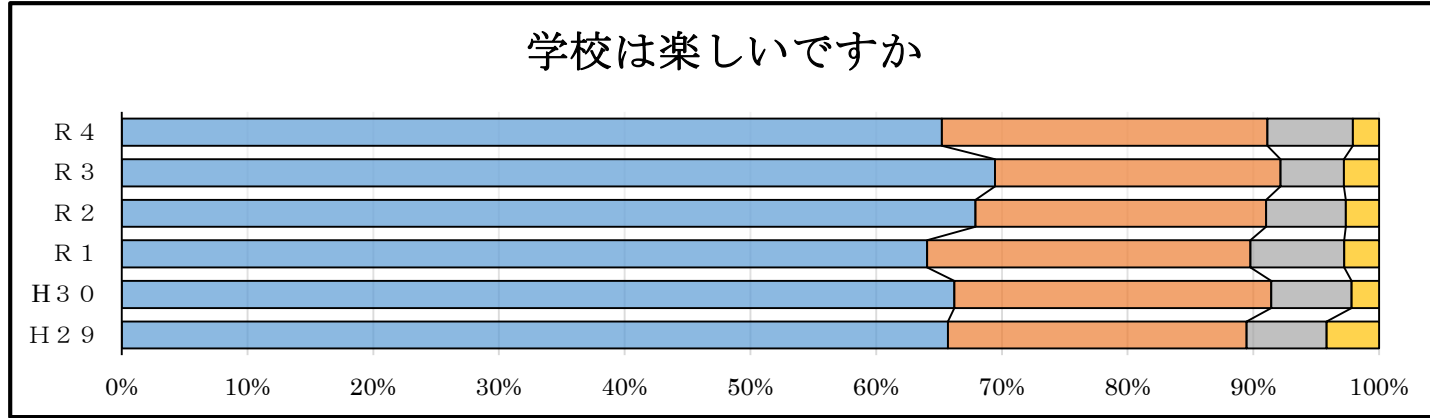
令和4年度学校評価 アンケート集計結果

■ そう思う ■ やや思う ■ あまり思わない ■ 思わない

I 児童アンケート結果

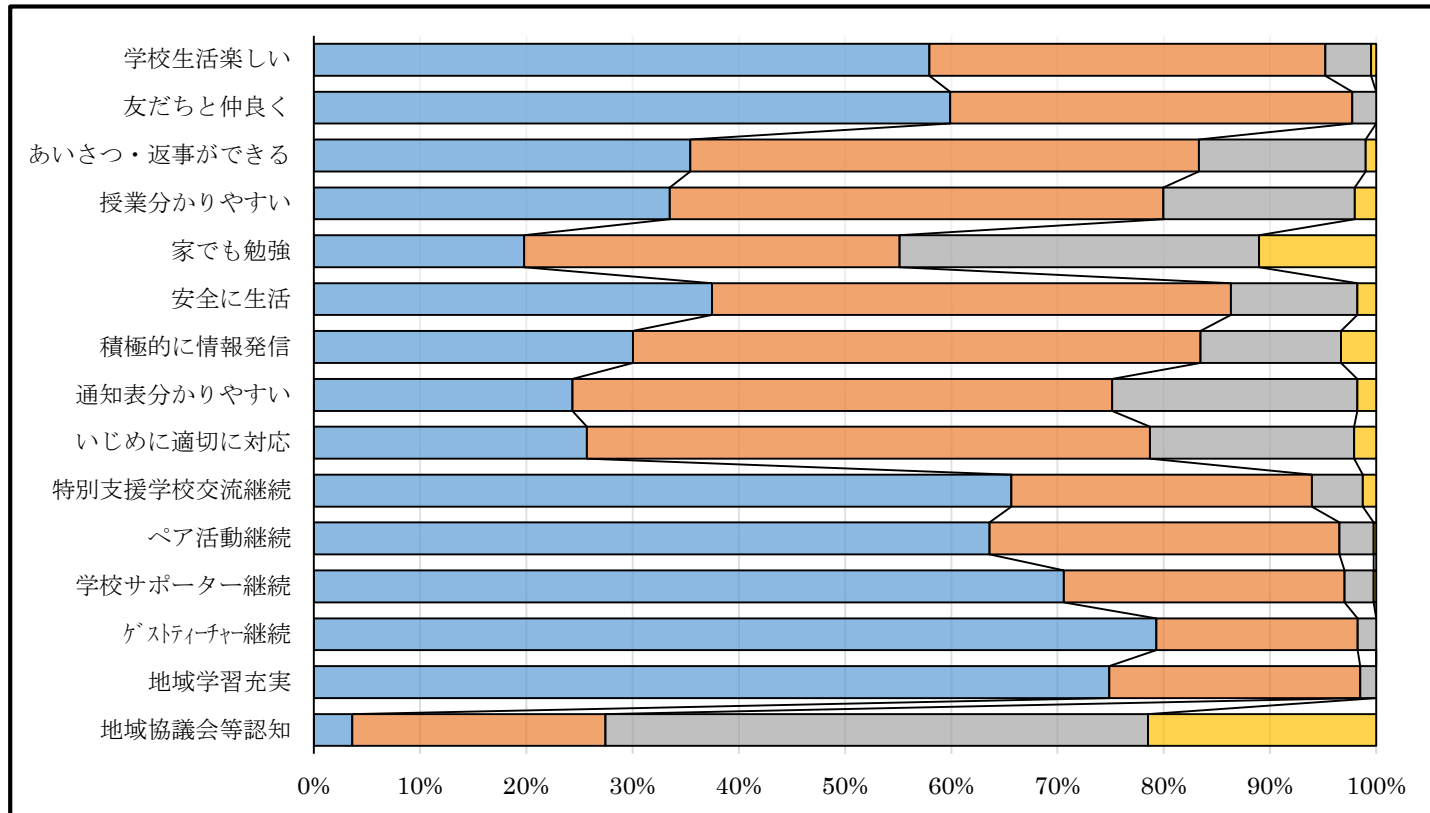


II 経年変化（児童）

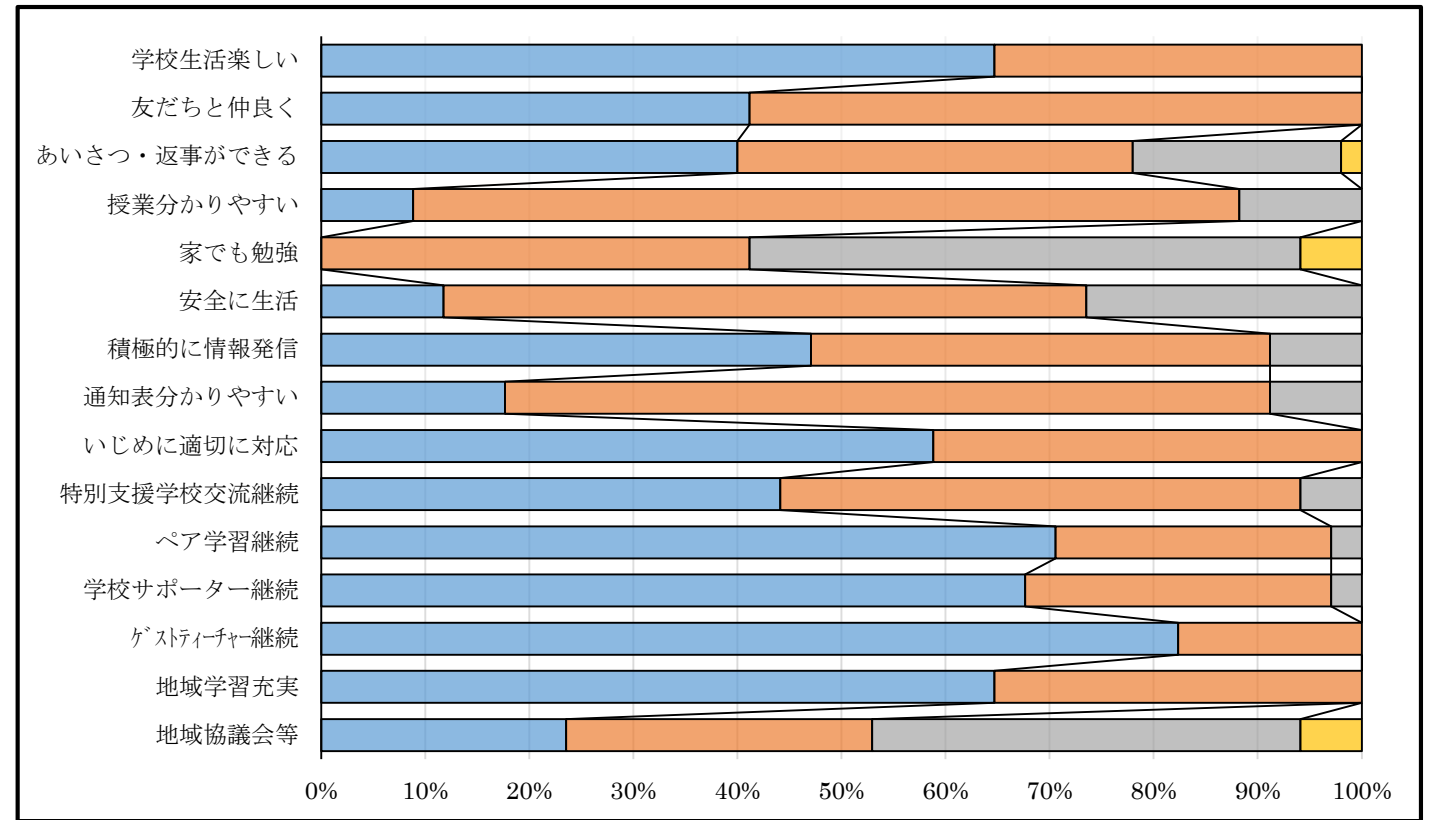


III 保護者・教職員アンケート結果

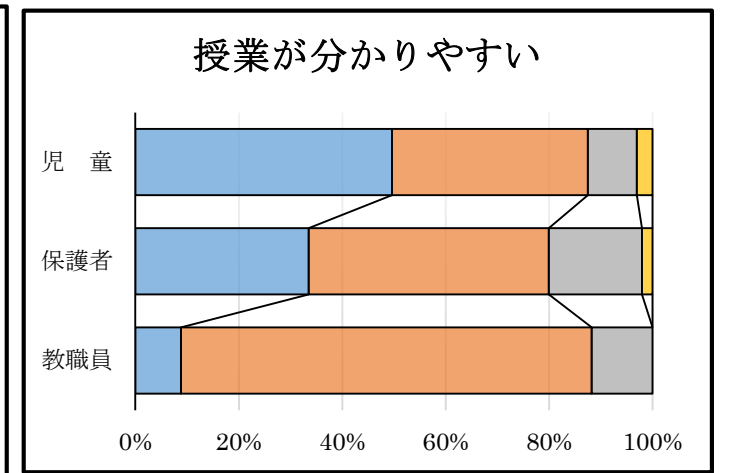
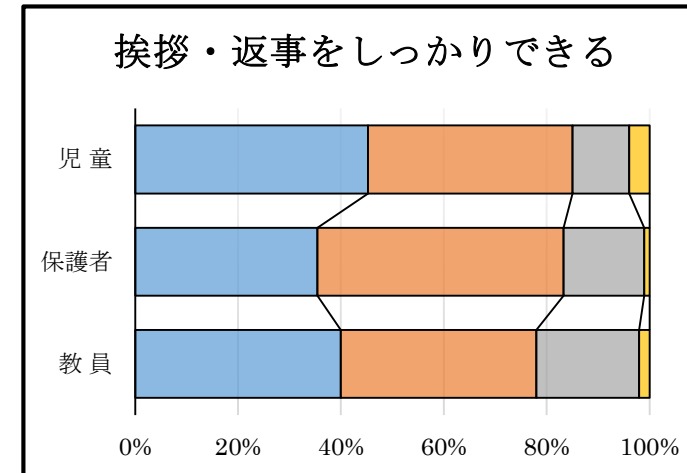
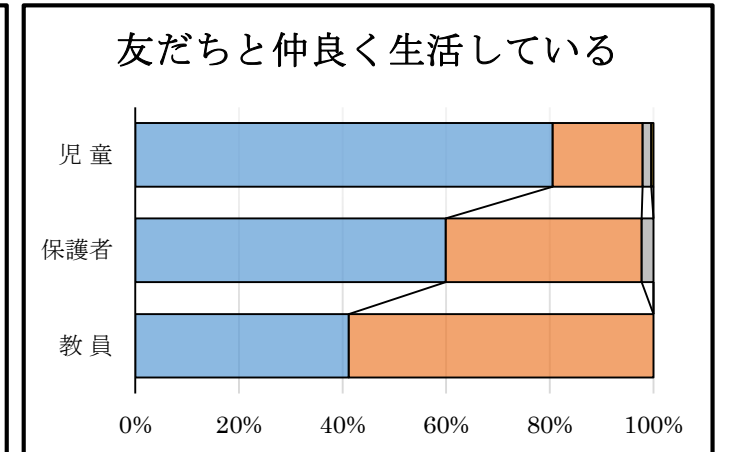
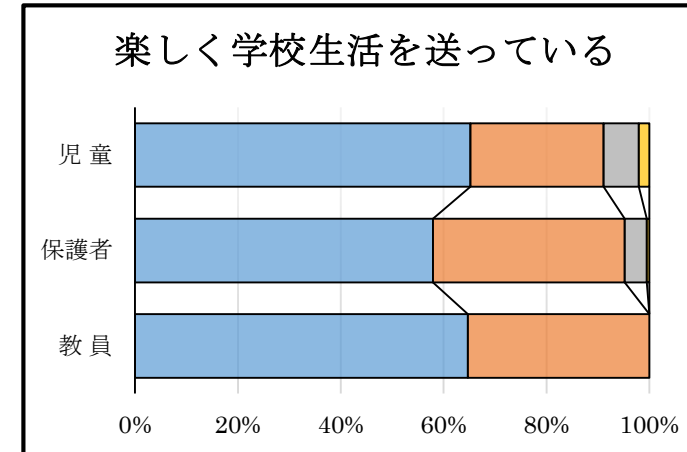
<保護者アンケート結果>

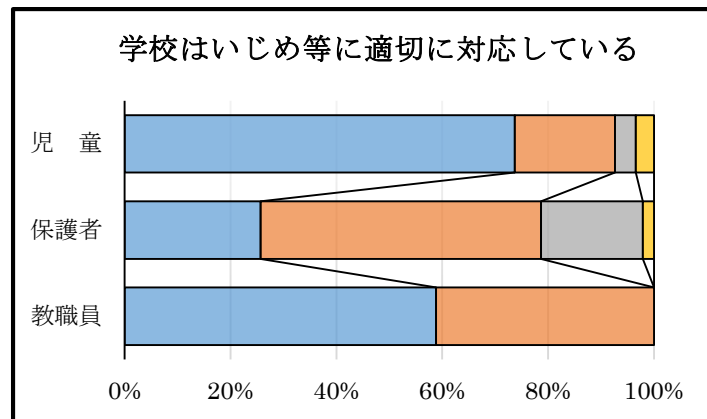
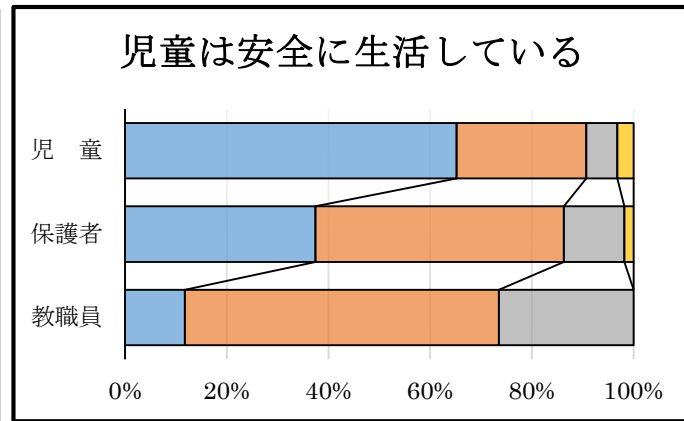
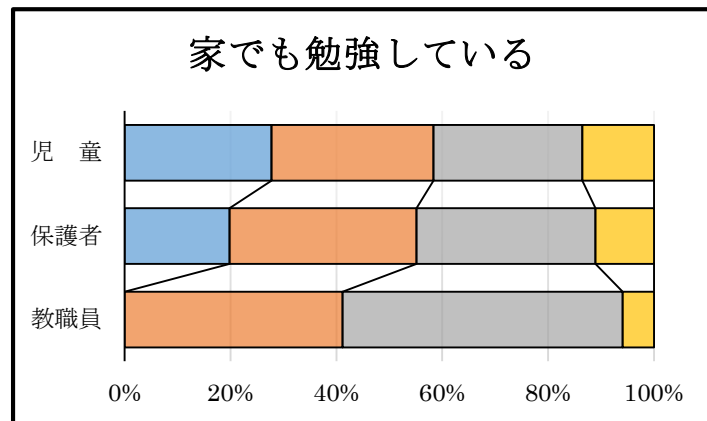


<教職員アンケート結果>

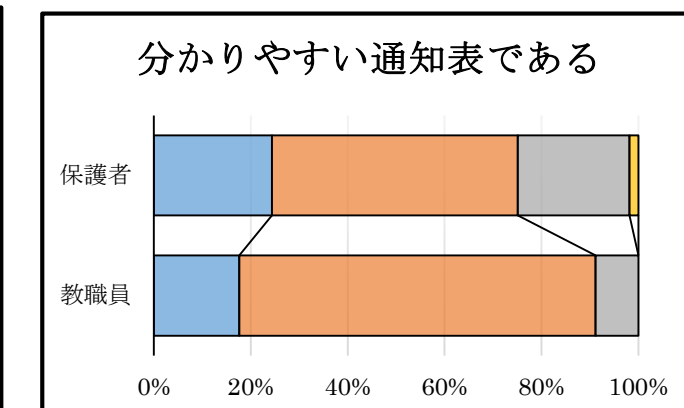
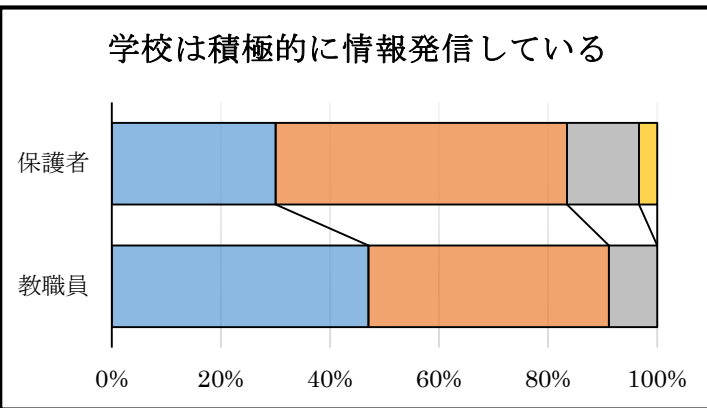


IV 児童・保護者・教職員アンケート結果三者比較





V 保護者・教職員アンケート結果二者比較



【学校評価アンケートの結果から】

1 児童アンケートの傾向

- 全体的に肯定的な回答が多い。ただし「学校は楽しくない」と感じている児童が47名、「友だちと仲よくできない」と感じている児童が11名いる。
- 「挨拶・返事をしっかりできる」「授業が分かりやすい」「安全に生活している」「係・当番にきちんと取り組む」「先生はいじめなどをきちんと解決してくれる」という設問に対しては、肯定的な回答が90%前後である。ただし中学年の「授業が分かりにくい」と感じている児童の割合が他学年に比べてやや高く、また「いじめなどを解決してくれていない」と感じている児童が39名いる。
- 「家でも勉強している」「困ったときに先生に相談する」という設問内は否定的な回答が多い。とりわけ「困ったときに先生に相談しない」と回答している児童が162名(31%)いる。この児童には相談相手がいるのか、困ったときにどうしていくのか等、考えていく必要がある。
- 「COVID-19の流行で悩みがある」という設問に「ある」「少しある」と回答した児童の数は、昨年度の223名(39%)から158名(30%)に減少している。今後も個々の悩みを丁寧に聴き取っていく。
- 経年変化を見ると、「学校は楽しいですか」は微減、「友だちと仲よくしていますか」は微増傾向である。

2 保護者アンケートの傾向

- 大多数の保護者が、児童は楽しく学校生活を送り、友だちと仲よくできていると感じている。
- 「授業が分かりやすい」「家でも勉強している」「通知表が分かりやすい」「いじめ等問題があったときに適切に対応している」については、他の設問に比べて否定的な回答が多い。とりわけ「授業が分かりやすい」についての否定的な回答が、昨年度に比べて増加している。

3 教職員アンケートの傾向

- 多くの教職員が、児童は楽しく学校生活を送り、友だちと仲よくできていると、昨年度より感じている。
- 見る目が厳しく低かった「そう思う」の割合が、昨年度より増加し、児童の成長を期した前向きな取組がうかがえる。
- 「挨拶・返事をしっかりできる」「家でも勉強している」「安全に生活している」「通知表が分かりやすい」については、他の設問に比べて否定的な回答が多い。

